

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 11 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	4076400193
法人名	有限会社 グループホーム ほほえみ
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	福岡県飯塚市勢田173-3 〒 820-1111 (電話) 09496-2-4623

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成21年12月1日

【情報提供票より】(平成 21 年 10 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 17 年 3 月 10 日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	10 人	常勤	5 人	非常勤	5 人	常勤換算	5 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (100,000 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日あたり	1,200 円程度		

(4) 利用者の概要 (10 月 30 日現在)

登録人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護 1	4 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	0 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 70.9 歳	最低	52 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院・アイ歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山々の裾野に広がる田園地帯に位置し、自然豊かな環境の中にあるホームである。平屋のスーパーマーケットを改築したホームで、「利用者一人ひとりの尊厳を大切に、安定した生活を実現するよう「入所者の生活の質の向上」を常に目標として、日々、スタッフの向上に全力を注ぎます。」などの法人理念を掲げている。利用者のペースを尊重しながら、「その人らしく」に視点を置き、地域とのかかわりを意識した個別支援が行われている。利用者の笑顔からいきいきと過ごしている様子が伺え、熱意あるホーム運営への意気込みが感じ取れる。町内の盆踊りや運動会へ利用者全員が参加したり、多数の公民館行事に参加するなど、地域交流が積極的に行われている。デイケア利用中の近隣の方が送迎前にホームに立ち寄りなど、今後ますます地域の認知症ケアの推進役となっていくことが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について運営推進会議時に報告し、職員へは、改善について協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程において、介護記録の様式の工夫を行ったり、職員間の連携が密に図られるなど、具体的な成果がみられる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価実施にあたり、職員間で確認を行い、計画作成担当者がまとめるなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、公民館長、老人会長、老人会副会長、婦人会女性局長、行政の担当課長、利用者などの参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議では、ホームの活動・行事報告のほか、休日のホーム行事実施による家族の来所の機会確保について提言があるなど、会議を活かした取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 面会時や計画作成担当者による利用者宅の訪問、その都度の電話連絡などを通じて、利用者の日常の様子や健康状態、外出・行事参加の様子などを報告している。家族の状況に応じて、携帯電話のメールで報告するなどの取組みがある。面会時や介護支援専門員による利用者宅の訪問などを通じて、家族との交流を深めながら要望や意見を出しやすいつながり作りへの配慮がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内の盆踊りや運動会へ利用者全員が参加したり、公民館行事に参加するなど、地域交流が積極的に行われている。近隣の老人会長や老人会の方がホームに來られたり、デイケア利用中の近隣の方が送迎前にホームに立ち寄り、利用者とは話するなど、自然に地域に溶け込んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	利用者「一人ひとりの尊厳を大切にし」…「入所者 の生活の質の向上」…などの法人理念をもとに、利 用者がその人らしく地域で暮らし続けるための支援を 目指し、安定した生活をおくれるように日々の業務に 積極的に取り組んでいる。理念の如く、いつも笑顔で 温かいアットホームな雰囲気が醸し出されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、自然に目に入る工夫がある。毎 日の申し送りや月1度のミーティング時、日々の業務 の中で、利用者の思いを尊重し、利用者本位のサー ビス提供について具体的に説明を行い、理念に基づ いたケアの内容について協議し、対応するなど、理念 の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会に加入し、町内の盆踊りや運動会へ利用者 全員が参加したり、多数の公民館行事に参加するな ど、地域交流が積極的に行われている。近隣の老人 会長や老人会の方がホームに来られたり、デイケア 利用中の近隣の方が送迎前にホームに立ち寄り、利 用者と談話するなど、自然に地域に溶け込んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について運営推進会議時に報告 し、職員へは、改善について協議を行うなど、質の向 上への取組みがある。この過程において、介護記録 の様式の工夫を行ったり、職員間の連携が密に図ら れるなど、具体的な成果がみられる。今回の自己評 価実施にあたり、職員間で確認を行い、計画作成担 当者がまとめるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、公民館長、老人会長、老人会副会長、婦人会女性局長、行政の担当課長、利用者などの参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議では、ホームの活動・行事報告のほか、休日のホーム行事実施による家族の来所の機会確保についての提言がみられるなど、会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当課長の参加がみられる。運営推進会議を通じての連携や疑問について相談したり、電話連絡を行うなど、行政と連携を図りながら、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と介護支援専門員が、利用者宅を訪問して家族などに成年後見制度や日常生活自立支援事業についての概要や利用手順について説明している。外部研修などに参加し、成年後見制度や日常生活自立支援事業について受講報告会や勉強会を行い、職員全体で理解を深める取り組みについては、今後の課題である。		全職員が成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を深めることができるような取り組みを期待します。運営推進会議等を利用して、広く情報を発信し、家族への繰り返しの説明を行いながら、制度の正しい理解が図られることを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や介護支援専門員による利用者宅の訪問、その都度の電話連絡などを通じて、利用者の日常の様子や健康状態、外出・行事参加の様子などを報告している。家族の状況に応じて、携帯電話のメールで報告するなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護支援専門員による利用者宅の訪問などを通じて、家族との交流を深めながら、要望や意見を出ししやすい雰囲気作りへの配慮がある。常に家族の思いや意向の把握に努め、出された要望は、申し送り時やミーティングに職員間で話し合い、ケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、法人内での異動はなく、利用者との馴染みの関係が保たれる体制を整えている。新しい職員が入職した際は、2週間程度は日勤のみの勤務とし、利用者へのかかわりを主に行ってもらいながら、管理者やなじみの職員が見守り・指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について年齢や性別、経験の有無などの制限は設けていない。やる気や人間性を重視しての採用である。飾り付けやレクリエーションにおいて、得意な職員が不得意な職員にアドバイスするなど、職員全体でお互いに補い合い、個々の能力を活かしながら勤務していく体制が整えられている。外部研修への参加や資格取得を目指す職員に対しては、勤務扱いとし、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修に職員が参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を行うなど、職員の人権意識を喚起する積極的、継続的な取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県のグループホーム協議会の研修や外部研修については、案内を提示して参加を募ったり、研修内容を考慮し管理者が外部研修への参加を促すなど、職員間で均等に研修参加の機会を確保する取り組みがある。参加後は、申し送り時に報告したり、職員間で資料を閲覧するなど、質の向上に向けて取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会の研修への参加を通じて、他事業者との職員間の意見交換や交流が図られている。管理者による他事業所への見学や情報交換・交流が図られており、今後は、職員間での相互訪問を行う予定である。		現在、管理者による他事業所への見学や情報交換・交流が図られており、今後、職員間での相互訪問を行う予定です。他事業所との相互訪問やネットワーク作りの体制が整えられることにより、新たな発見や気づきを生む機会となり、更なる質の向上に取り組まれることを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族への利用前の面談による聞取りやホーム見学などを通じて、本人の様子を見ながら、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、状況に応じて家族への面会をお願いし、利用者への頻繁な声かけを行い、かわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者から学ぼうとする取組みがある。利用者から、介護ケアの方法や声かけの仕方についてアドバイスをもらったり、利用者同士が互いに気遣う様子も見受けられた。利用者が職員に自然に感謝やねぎらいの言葉をかけるなど、お互いを尊重し支えあいながら共に過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談や家族の面会時、利用者宅への訪問などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。日常のかかわりの中で、利用者の動作や表情などから思いや意向を汲み取り、計画作成担当者にて目標やケアの内容についての原案を作成している。その後、サービス担当者会議にて職員間で検討し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて、職員全体で本人・家族の意向及びケアの内容について話し合い、計画作成担当者が介護計画書を作成する取組みがある。日常のかかわりの中で、毎日のケアチェックを行い、6ヶ月毎に職員全体で利用者・家族の意向の確認や目標・サービス内容の評価などを行い、見直し作成を行う取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	6ヶ月毎および状況の変化時や家族の希望時に、内 容の検討及び再作成が行われている。利用者の情報 や心身状況の変化について日々の申し送り時に確認 を行い、月に1度のミーティングにおいて、職員全体で 利用者や家族の意向の確認、目標・ケアの内容につ いて口頭にて検討が行われる取組みがある。		状況の変化時や家族の希望時、6ヶ月毎に内容の 検討及び再作成が行われています。月に1度のミー ティングにおいて検討された内容について記録の充 実が図られることを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関やかかりつけ医による月1回の往診 や連携支援、通院介助が行われている。入院時は、 管理者が週2回面会し、家族に代わって着替えを届け たり、利用者の状態把握や早期退院に向けた支援を 行っている。また、計画作成担当者が利用者の自宅 を訪問し、利用者の状況を報告するなど、家族の状 況に応じて柔軟に支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医やかかりつけ医との連携により、 月1回の訪問診療や利用者の状態把握、状態に応じ た通院介助を行うなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	管理者と計画作成担当者が利用者の自宅を訪問 し、重度化や看取りについての対応を説明し、利用 者・家族の意向を確認し、同意を得ている。利用者宅 への訪問時やその都度、意向を再確認し、本人・家族 の意思を尊重しながら、家族・主治医・事業所間で協 議し、方針を共有していく取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で、常に尊厳を持った支援を心 がけ、日々のケアやミーティング時に管理者が指導 し、職員の意識の向上を図る取り組みがある。利用者 一人ひとりに応じた呼称やタイミングを見計らったの 声かけ、視線を合わせて笑顔で傾聴するなど、利用 者の自尊心やプライバシーに配慮した対応が見られ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、その時々のお気持ちを尊重し、決して無理強い せず、様子を見ながら声かけを行っている。レクリ エーションの参加や談話、テレビ鑑賞、食事・入浴の タイミング、食事のペースなど、利用者一人ひとりの ペースを尊重し、希望や状況に応じて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことができる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の好みを反映させた献立や季節感を取り入 れた食事を提供し、食事の一品に紅葉の葉を添える などの食事を楽しむ為の細やかな配慮がある。利用 者がおはぎを作ったり、芋づるの下ごしらえや配膳、 台拭きを行うなど、利用者の出来る範囲でかわる 取り組みがある。利用者と職員が会話を楽しみながら、 和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	隔日の入浴で午前中が基本であるが、利用者本位 に支援している。利用者一人ひとりの希望に応じて、 入浴の回数・順番を決めたり、温泉風の入浴剤を使用 するなど、利用者の体調に配慮しながら、利用者一 人ひとりがくつろぎながら入浴を楽しむための取組み がみられる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	朝の居室の清掃や体操リーダー、洗濯物たたみ、 庭の草取り、配膳、テレビのリモコン係など、利用者 の出来ることや生活歴などを把握し、支援している。 利用者が、以前の介護の職業を活かしてホーム内の 見守りや他の利用者・職員への声かけ、アドバイスを 行うなど利用者の特技を活かした支援が見受けられ た。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	町内の盆踊りや運動会へ利用者全員が参加した り、多数の公民館行事への参加や毎月1回の外食、 落語見物、温泉、花見など、利用者の状況に応じて積 極的に外出支援を行っている。日々の散歩や買い物 など、できるだけ戸外に出かける支援が行われている。 個別の希望に沿って、現在、地域のサークル活動 への参加を検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に入出入りできる。 職員は利用者の様子をきめ細かく観察、見守りなが ら、さりげなく声をかけるなど、利用者の自由な暮らし を支える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会い指導による避難訓練や夜 間を想定した自主訓練を実施し、避難場所や避難経 路の確認等が行われている。運営推進会議時や日々 のかかわりを通して、老人会長や近隣住民との連携、 協力体制が整えられている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の栄養バランスや栄養価を考慮し、利用者 のリクエストを献立に反映させるなど、食事を楽しむ ための取組みがある。利用者毎に毎回の食事量や水 分量を記録し、水分摂取量が少ない利用者へは、頻 繁な声かけを行うなど、栄養摂取や水分確保への支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は天井が高く、明るく開放的な空間となっ ている。玄関には季節の花々が飾られ、リビング内 には、利用者の手作りの品々や行事のスナップ写真が 飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出している。リビング の大きな掃きだし窓からは外の景色を眺めることが でき、落ち着きを感じさせ、利用者がコタツでくつろぎな がらゆっくりと居心地良く過ごせる工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、寝具やタンス、仏壇、ぬいぐるみ、ポス ター、調度品、座椅子などの馴染みの物や使い慣れ た物が持ち込まれており、安心して居心地良く過ご せるための居室作りの工夫や配慮がみられた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号